



～活動の芽を育てよう！Yes！はじまりの合図～

eyes *あいず*



森川亜弥さん

出会いの「ト」から

はじまる

4年前に天草から熊本に引っ越してきて知り合いもなく、地域の人たちと知り合う機会を探していた森川さん。

「子どもが生まれて、地域の公民館で行われていた新日本婦人の会主催のリズム体操に参加して、お母さん同士で交流することが出来ました。

リズム体操のサークルは、0歳児から幼稚園・保育園への入園前の子どもとお母さん対象だったのですけど、せっかく仲良くなったのに、このまま交流できなくなるのもさびしいし、お母さんたちとの交流を通じて食の大切さをしみじみ感じていたところだったので、それじゃあ食育の勉強会でもはじめようかーということできりりんこ』という食育のグループをつくりました」

母乳育児サークル「ハグ」の代表もやっていらした森川さん。「ハグ」との出会いもリズム体操で知り合ったお母さんがきっかけだったとのこと。

“出会い”から“知る”そして“考える”！！ お母さんたちと一緒に考えていきたい♡

今回、表紙を飾っていただいた森川さん。いつも穏やかで優しい笑顔をとたえる
そんな森川さんの笑顔の秘訣は？！



「リズム体操で知り合ったお母さんに誘われて母乳育児サークル「ハグ」の活動に参加していたのですけど、いつの間にか代表をやることになってしまつて、「ハグ」でも、たくさんの人と知り合い、考えるきっかけになりました」

生活の基礎は、食、

「きりんこ」という名前は、グループの名前を付けようという事になって、みんなでアイデアを出し合っていた時、一人の子が『きりんこがいい』って、その子のお母さんに言ったんです。そしたら、みんなが『それがいいね』『かわいいね』という事になって決まったんです。」

「料理を教えてくださいたいという先生のお一人が、益城で野菜作りをされている農家の方で、お宅でとれた野菜を食材として提供していただいています。生産者ならではの調理の仕方とか、レシピを教えてくださいたいです。」

「なにより、取れたての新鮮な野菜をみんなで調理して、たくさんのお母さんたち、子どもたちとおいしくいただけ、とても楽しい時間を過ごしています。」

生産者とも

つながって

産地のことなどいろいろ学ぶことが多くあります。熊本という自然が豊かで、農作物にも恵まれた環境で生活しているんですから、地元でとれたものを美味しくいただく、地産地消を大切にして、みんなで食育を勉強しています。

「これから、たくさんの人との出会いがあるかと思っていますが、子育てしているお母さんたちとつながっていたいと思っています。」

「これからも、ゆつくりと着実に、きりんこの活動は続いているのでしょ。」



熊本といえば「からしレンコン」



みんなでおいしくいただきます



山本ゆかり さん

英語との出会い 異文化との出会い

小学生ころから、英語や外国、異文化に興味があったという山本さん。興味を持ったきっかけはなんだったのでしょうか？

「小学生のとき、講演で見かけた外国人たちが楽しそうに会話をしていました。それがきっかけとなり、英語を話せるようになりたい。一心で、両親を説得すること10年。高校卒業後、ついに留学オーケーを得ることができました。」

その後、外資系航空会社3社での乗務経験から様々な国で人と出会い、驚きや発見を経験した山本さんは、一人一人の心の持ち方で誰もがハッピーになれる！と感じる光景をよく目にしたそうです。

「例えば、車いすの方が階段の手前で困っていたら、自然と青年たちが集まり、車いすを抱えて一緒に階段を上がっていました。熊本でも市民活動やボランティア活動が活発に行われ、質の高いサービスに取り組まれている方々にお会いする機会があります。でも残念ながら街の中では、一般の方が当たり前のように、障がい者や高齢者に自然に手を差し伸べる光景を見ることは、まだ少ないように思います。」

心をバリアフリーに 出会いの喜びと感動を



先入観をなくして心のバリアを解き、誰にも優しい住みやすい社会をつくること、そこで一緒に生きていくことが求められます。」

熊本で異文化交流 オレンジの会

「私が代表を務めるボランティア団体『異文化交流オレンジの会』は、毎年6月熊本市を中心に、アメリカの高校生を受け入れるホームステイプログラムを行っています。今年で5年目。米国オレゴン州の高校生を7日間、家族としてホストファミリーが迎え入れます。」

今年、オレンジの会主催で行った、熊本を訪れてくれたアメリカ人学生とのワークショップでは、東日本大震災や原発の事故を知り、翌日には何と「Can for Japan」と何づけた募金活動をはじめた女子高生や消防局長の父親を尊敬し、将来は消防士になるため空手や訓練に励んでいるという男子高校生などの発言から、感謝の心と勇気をいただいたとおっしゃっていました。

「国際化が進んだといっても、まだまだ地方では外国人と触れ合う機会はとても限られています。出会いの喜びや感動をもっと多くの人に感じてもらいたいです。」

外国人と一緒に過ごすのは



非日常的な出来事です。ホストファミリーのみなさんも、はじめは不安や戸惑いを持たれます。でもすぐに慣れ、交流を楽しんでおられます。

熊本にいながら海外と交流を深めることは、熊本の若者が国際人になっていくきっかけにもなります。いつの日も、出会いには新しい発見や喜びがあります。これからも、一人でも多くの熊本のみなさんと米国の高校生が生涯大切にしたいと思える友情を築くことができ、互いに学びあえる機会を提供できることを願っています。」

〒862-0971 熊本市大江5丁目1番1号 熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと1階

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

電話 096 (366) 0168 FAX 096 (366) 8830

〒860-8601 熊本市手取本町1番1号 熊本市役所12階

熊本市市民協働推進課

電話 096 (328) 2036 Eメール shiminkyoudou@city.kumamoto.lg.jp



eYesとは…

みなさんの目（視点・感性・思い）から生まれる活動（芽）に焦点をあてる情報誌です。